

令和2年度 摂津市立味生小学校 第4回学校協議会 要点録

令和3年2月24日(水) 18:55~20:25
於：味生小学校 ランチルーム
記録 清家 伸次(事務局:本校教頭)
出席委員 4名

1. 今西会長より挨拶

会長:最近寒い日が続いているが、皆、無事卒業式を迎えることを願っている。今年度もあと一か月となった。子どもたちのため、最後までよろしくお願いしたい。

2. 校長より挨拶

校長:先日、研究発表会をオンラインで行った。学校単位での申し込みも含め、ZOOMを使った発表会には約150名の参加があり、実り多いものとなった。寒い中、また、3学期に入り、3度目の開催だが、ご都合をつけてのご出席に感謝申し上げます。この後、令和3年度の学校経営計画についてのご意見をいただきたい。防災備蓄品をこの度入れ替え、賞味期限が迫っている乾パンと水を見童に持ち帰らせた。それを各家庭で食べながら、1月の阪神淡路大震災、3月の東日本大震災の惨禍を忘れず、防災意識が少しでも向上するよう話し合っただけで欲しいと考えている。

3. 令和3年度学校経営計画について

校長:めざす学校像「あたたかい心とことばのあふれる学校」を実現するために、中期的目標(3年後までに実現したい学校の姿)と今年度の重点的取組みは次のとおり。計画を実行・実践するために皆様より、様々な角度からご意見を頂戴したい。

(1) 子どもの笑顔があふれる学校

- ① すべての児童が学びに向かう安全・安心の学級集団づくりを進める。
 - ・児童が安全・安心を感じることができ、大切にされていると実感できるようにする。
 - ・学習環境を整え、誰もが集中して学びに向かうことができるようにする。
 - ・人権教育の充実を図り、違いを認め合える集団づくりに取り組む。
 - ・児童の自己肯定感、自己有用感を育てる。
- ② 「みんなが『教室にいたい』と思える授業づくり」の研究を進め、児童の学力向上をめざす。
 - ・今年度同様、「国語科」の研究を中心に行う。
 - ・アンケートの結果から読書習慣が定着していないことが明らかになり、その改善策に取り組む。

(2) チームで歩む学校

- ① 学校教育目標の実現に向け、「チーム味生」を実現する
 - ・適材適所を意識し、組織力を高められるよう、目標や課題を教職員間で常に共有する。
 - ・学校予算、学校徴収金を適正に執行にする。
- ② 教職員の資質向上と人材育成
 - ・教職員の人権研修を充実させ、人権感覚と人権意識を向上する。
 - ・管理職への、「報告・連絡・相談・最終報告」を徹底し、組織対応を行う。

・教職員の年齢構成が若返ってきている。日頃から指導・助言できる体制を作る。

(3) 地域・保護者とともに子どもを育てる学校

① 小中一貫教育を推進する

・キャリア教育をはじめ、取組みの中で「四中校区でめざす学校像・子ども像」を共有し、連携の強化を図る。

② 学校協議会や学校教育自己診断による学校評価を生かして、教育活動の改善を図る

・各種アンケートを実施し、保護者・地域の評価を学校の取組みに生かす。

・フリー参観等を実施し、保護者・地域の方々が教育活動に直接触れる機会を作る。

・地区懇談会を実施する。

・地域の教育力、資源と連携した教育活動を実施する。

・教職員が学校外に出ていく機会を作る。

質疑応答

委員：緊急事態宣言が解除されても、やはり教育活動をこれまでと同じように再開することは難しい気もする。この計画ができる限り実行できることを願うばかりである。

委員：外出が規制されているので、学校と連合自治体との接点もなかなか作れない。地域の動きがよくわかるのは地区運動会などの行事。地域も学校の動きがよくわかる。こんな時だからこそ地域と学校の連携は重要だが…。

委員：地域の行事に学校の教職員に出てもらおうにも、もっと地域が声かけしないといけない。

委員：学校経営計画が教職員全体のものにならないといけない。そして、保護者にも示す必要がある。味生小学校が何を大切に取り組んでいくのかを、もっとわかりやすく標記する必要もある。例えば、安全・安心の学校づくりをめざすとか、防災と交通安全などの安全教育に取り組むとか。

委員：学校としての特色は何か？校長としては、これだけは絶対やり切りたいと思うものは何か？それがもっと前面に出て欲しい。

校長：学びに向かう教室や学校を創りたい。そのための前提として、安全・安心の学校づくりを進める。

委員：安心して学べる学習環境づくりは大切。学力向上も生徒指導も、様々な連携もすべて安心につながる。学校でも、家庭でも、地域でも同じことを言われると、それは大事なことと子どもたちも考えると思う。この計画において、これだけはやるというものをしっかり示し、教職員・家庭・地域と連携して実行していくことが大切。

委員：以前、地域の環境を浄化する取組み(河川をきれいにするなど)を行った。最近、そんなこともなくなっている。地域の自然を大切にする取組みなどを一緒に出来たらいい。

委員：団地の敷地内で、学校の帰り道にかばんとマスクを置いて遊び回っていることがある。そのような場面を見たら、みんなで注意できる地域にしていけないといけない。

委員：以前勤務されていた校長が、休み時間の後に、なかなか教室に入らない児童を何とか教室に入れようと努力されていた。少しでも学びに向かう気持ちをつくりたいと願っておられた。また、ある校長は児童の自尊感情を育むため、絵画コンクールなど様々なコンクールへの応募を呼びかけ、入選時には、集会等で表彰していた。校長が児童の現状から、やりたいことをもっと絞って、これを味生小学校では児童のため取り組むとアピールしてもいいのではないか。

委員：教職員の平均年齢が若くなってきている。道徳や人の道などを説いていくのも教員の役目だが、若い人にはなかなか難しいことと察する。ベテラン教職員と若手教職員の連携がこれからは大切。

委員：以前、各地区の地区懇談会に教職員が出席してくれていたことがある。そこで学校の現状を話していただき、地域ができることを考えるために意見交換を行っていた。そんな機会が是非欲しい。

校長：会長が職員室の教職員と自然に話しておられる姿を拝見し、新鮮であり、日常的に話すことが大切だと感じた。

委員：校長の話から、コロナ禍の中で、研究発表会の形が大きく変わってきたと感じる。今後は、変えないといけないものと変えてはいけないものを見極めながら、新たな取組みに挑戦していくべき。

校長：柱は何かというご指摘を受け、重点をはっきりさせながらも何を具体的にを行うかはわかりやすいように、学校経営計画を改善したい。新年度にまた、ご覧いただけるよう準備する。

4.今年度学校協議会のしめくくり

校長：今年度は、地に足がついていない状態だったような気がする。新型コロナウイルス感染症対策に追われ、やるべきことの事前準備を十分にしていることができなかった。次年度は、その辺も改善したい。今年度の学校協議会も最終なので、皆様から一言頂戴したい。

委員：大切なのはボランティアの気持ち。双方が協力して、感謝し合って、笑顔で過ごすことが大切。

委員：河川敷を散歩していたら、鳥飼大橋のちょっと向こうにさまざまな野鳥、小動物がいた。地域の自然を学校教育に活用できないかと思う。場所の利を活かしてほしい。自然に対して大切にしたい気持ちと感謝の気持ちを子どもたちには育てて欲しい。

委員：校長がこの学校に誇りを持って欲しい。校長が誇りを持たないと、教職員も児童も学校に誇りを持つことはないのでは。もちろん愛情を持って努めておられるが、その気持ちをしっかり発信して欲しい。

会長：地域で精一杯学校のバックアップを今後もしていきたい。何でも話し合える場が次年度はもっと作れる状況になっていることを願うばかりである。

5.次年度について

校長：研究発表会には、市の広報や教育委員会事務局からも取材に来られた。今後も、本校の取組みを様々な形で発信し、開かれた学校づくりに励みたい。皆様におかれましては、次年度もぜひ委員として、学校協議会に出席いただき、ご意見を賜りたい。コロナ禍の中、皆様からの温かいご意見、ご提言にはただ感謝しかない。